

資料5 意向調査

1. 市民アンケート

(1) 調査概要

①調査目的

アンケート調査を通じて、住まい・まちづくりに対する市民の考えや意見を把握し、計画策定の基礎資料としました。

②調査方法

- 調査対象：真岡市に居住する世帯主
- 調査範囲：真岡市全域
- サンプル抽出方法：住民基本台帳（平成30年7月現在）より無作為抽出
 - ・サンプル数：1,500件
- 調査時期：平成30年7月
- 配布・回収方法：郵送配布・郵送回収

③回収結果

1,500票を配布し、回収数は483票であり、回収率は32%です。

◇配布・回収結果

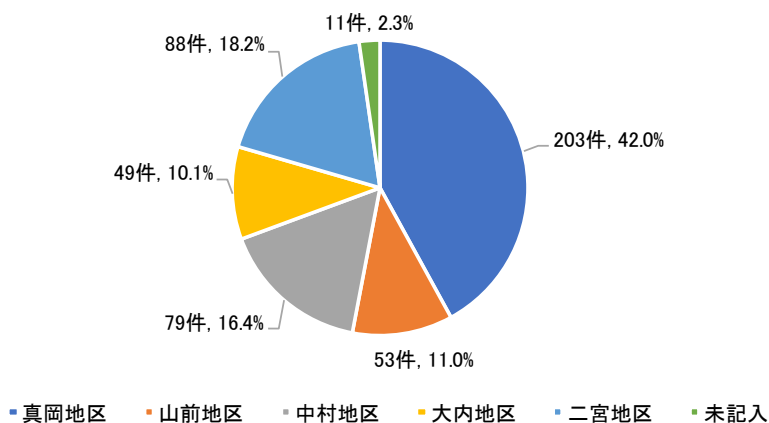
	配布数	回収数	回収率	無効票	有効票	有効回収率
票数	1,500	483	32.2%	0	483	32.2%

※無効票は、回答記入がほとんどないもの。

◇地区別回収状況

真岡地区	山前地区	中村地区	大内地区	二宮地区	未記入
203	53	79	49	88	11
42.0%	11.0%	16.4%	10.1%	18.2%	2.3%

アンケート地区別回収状況 (n=483)



(2) 調査結果

①住宅・住環境の評価

「満足」及び「やや満足」の比率を合わせて満足割合、「不満」及び「やや不満」の比率を合わせて不満割合として、住宅・住環境の評価をみると、次のとおりです。

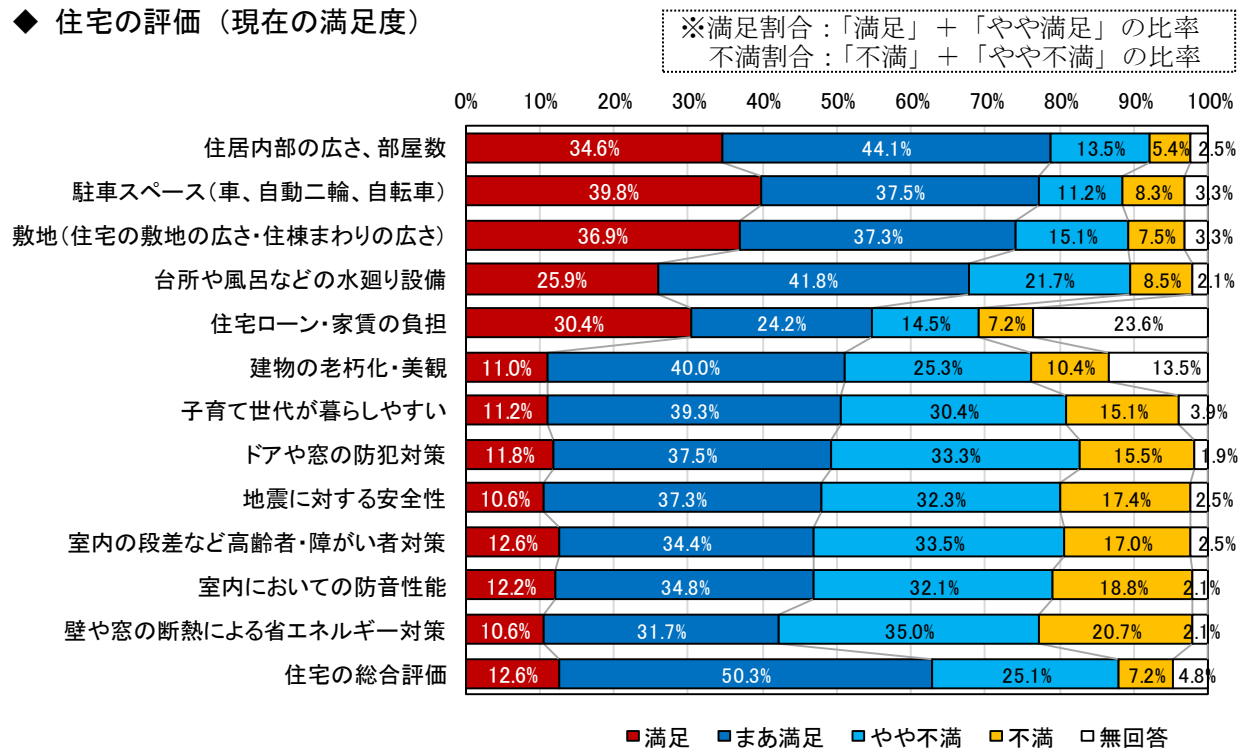
○住宅の評価（現在の満足度）

満足割合でみると、「広さ、部屋数」78.7%、「駐車スペース」77.3%、「敷地の広さ」74.2%が特に多く、次いで「台所などの水廻り設備」67.7%などとなっています。

一方、不満割合でみると、「省エネ対策」55.7%、「段差等の高齢者・障がい者対策」、「防音性能」、「地震に対する安全性」は約50%、「防犯対策」48.8%などの住宅性能の面で不満が多くなっています。

住宅の総合評価としては満足割合が62.9%と6割を超えています。

◆ 住宅の評価（現在の満足度）



○住宅の評価（今後の重要度）

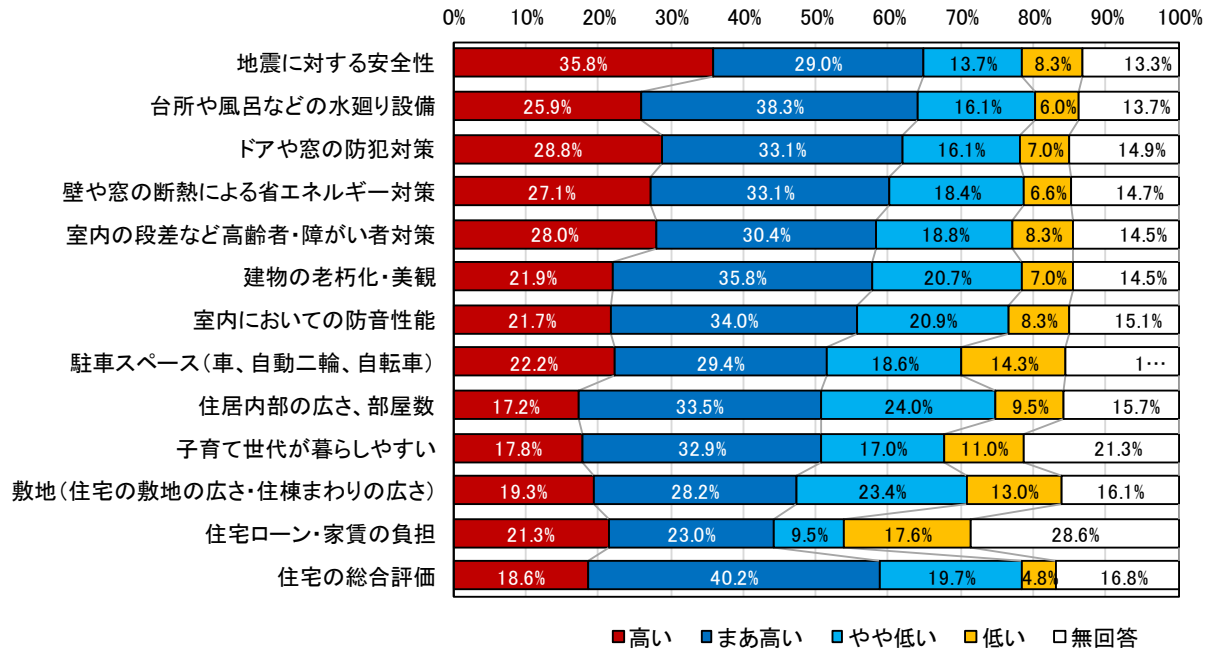
高い割合で見ると、「地震に対する安全性」64.8%、「台所などの水廻り設備」64.2%、が特に多く、次いで「防犯対策」61.9%、「省エネ対策」60.2%などとなっています。

一方、低い割合で見ると、「敷地の広さ」36.4%、「広さ、部屋数」33.5%、「駐車スペース」32.9%などが多くなっています。

住宅の総合評価としては、重要度が高いと回答した割合が58.8%となっています。

◆ 住宅の評価（今後の重要度）

※高い割合：「高い」＋「まあ高い」の比率
 低い割合：「低い」＋「まあ低い」の比率



○まわりの住環境の評価（現在の満足度）

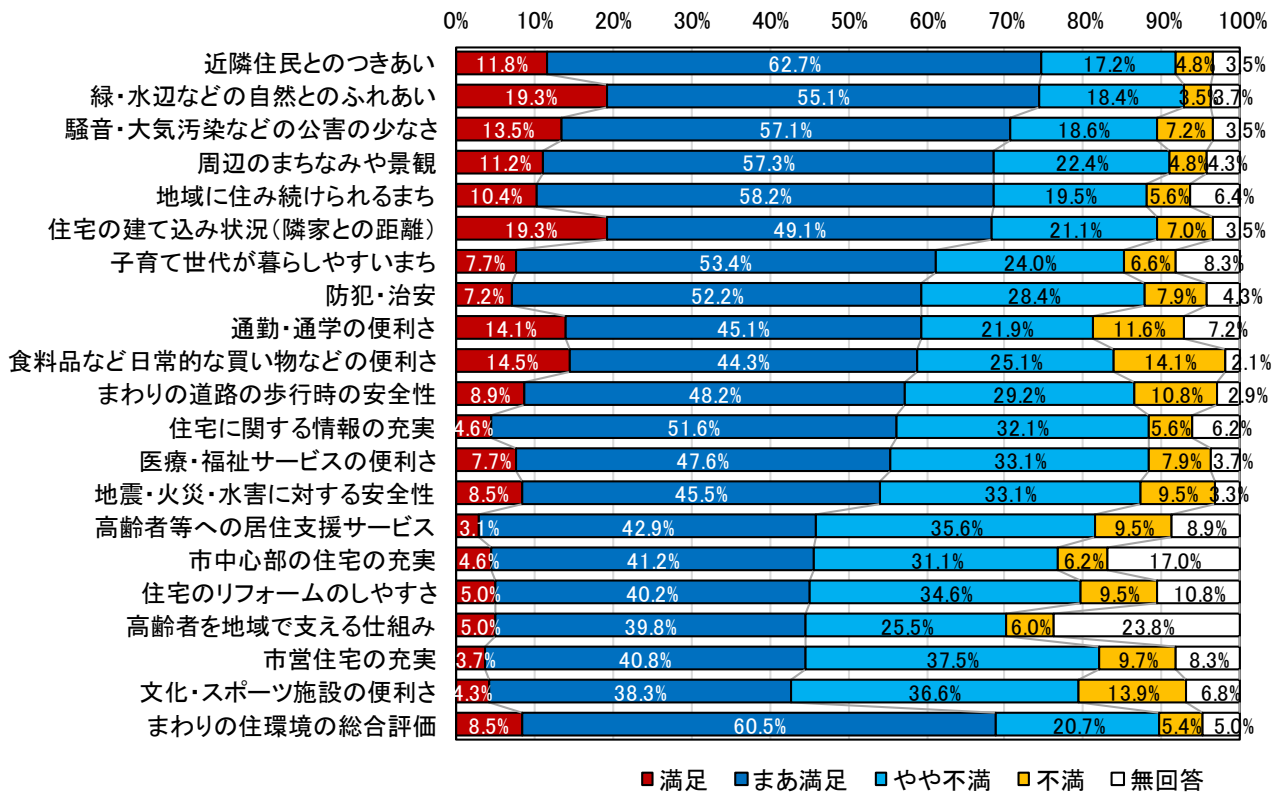
満足割合でみると、「近隣とのつきあい」74.5%、「自然とのふれあい」74.4%、「大気汚染等の公害の少なさ」70.6%、「まちなみや景観」、「住み続けられるまち」約69.0%、「建て込み状況」68.4%が特に多く、「子育て世代が暮らしやすい」61.1%、「買い物の便利さ」、「防犯・治安」、「通勤通学の便利さ」約59%などの項目で満足割合が概ね6割を占めています。

一方、不満割合でみると、「文化・スポーツ施設の便利さ」50.5%、「市営住宅の充実」47.2%の2項目が満足割合より大きい状況です。また、「高齢者等への居住支援サービス」45.1%、「リフォームのしやすさ」44.1%、「地震等に対する安全性」42.6%で、ほかの項目に比べ多くなっています。

住環境の総合評価としては、満足割合が69%と概ね7割を占めています。

◆ まわりの住環境の評価（現在の満足度）

※満足割合：「満足」＋「やや満足」の比率
 不満割合：「不満」＋「やや不満」の比率



○まわりの住環境の評価（今後の重要度）

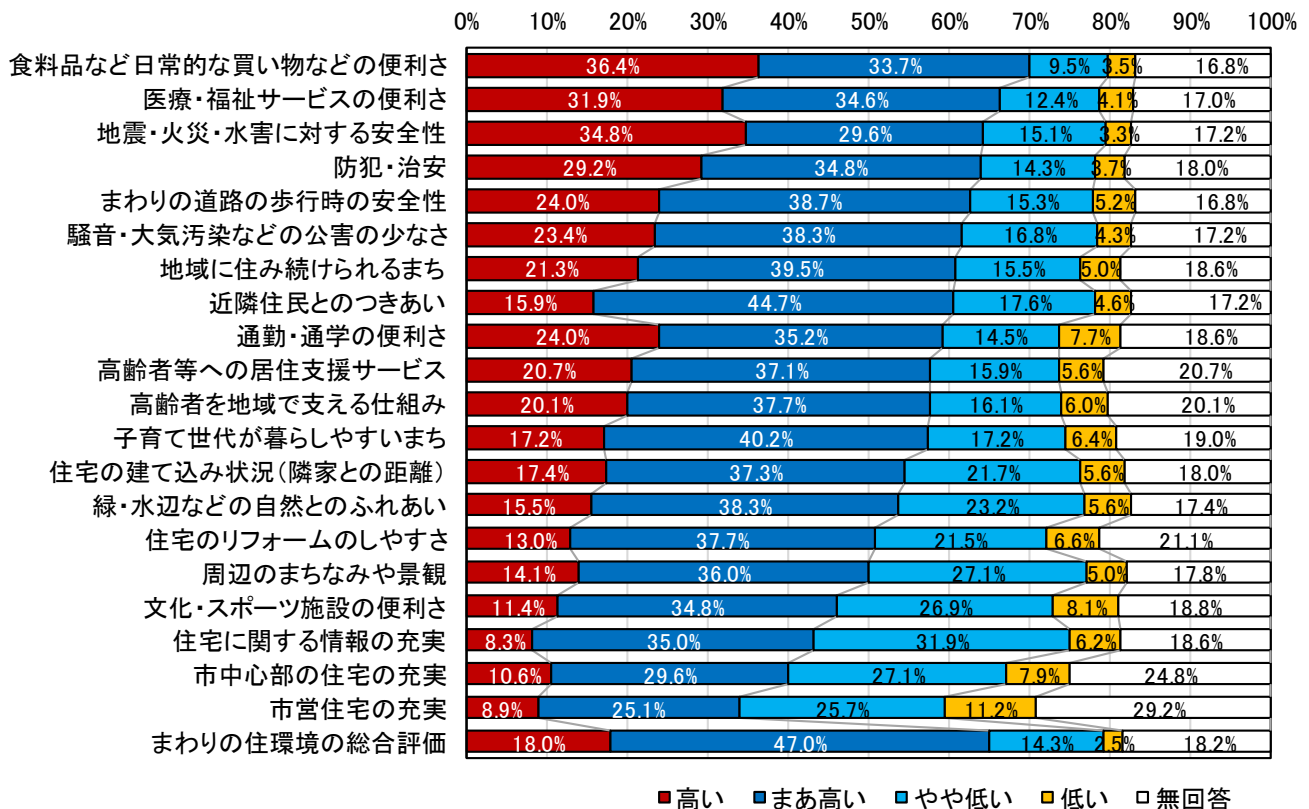
高い割合で見ると、「買い物の便利さ」の70.1%が最も多く、次いで、「医療・福祉サービスの便利さ」66.5%、「防犯・治安」、「地震等に対する安全性」約64%「まわりの道路の歩行時の安全性」62.7%、「公害の少なさ」61.7%、「近隣住民とのつきあい」、「地域に住み続けられるまち」約61.0%、「通勤通学の便利さ」59.2%などの項目で満足割合が概ね6割を占めています。

一方、低い割合で見ると、「住宅に関する情報の充実」38.1%、「市営住宅の充実」36.9%、「文化・スポーツ施設の便利さ」、「市中心部の住宅の充実」35.0%などが多くなっています。

住環境の総合評価としては、重要度が高いと回答した割合が65%となっています。

◆ まわりの住環境の評価（今後の重要度）

※高い割合：「高い」＋「まあ高い」の比率
 低い割合：「低い」＋「まあ低い」の比率

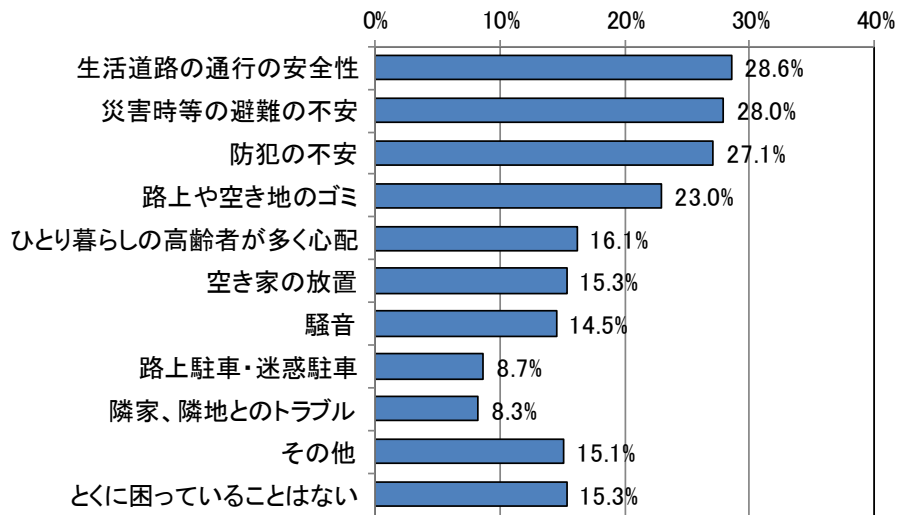


○地域等で困っていること（複数回答）

「とくに困っていることはない」は前回調査の30%から15.3%へ15ポイント下がっており、居住環境の問題は拡大してきていることが伺えます。

「生活道路の通行の安全性」28.6%、「災害時の不安」28.0%、「防犯の不安」27.1%、「路上や空き地のゴミ」23.0%が多くなっています。一方、「隣家、隣地とのトラブル」8.3%、「路上駐車・迷惑駐車」8.7%は少ない状況にあります。

◆ 隣近所で困っていること



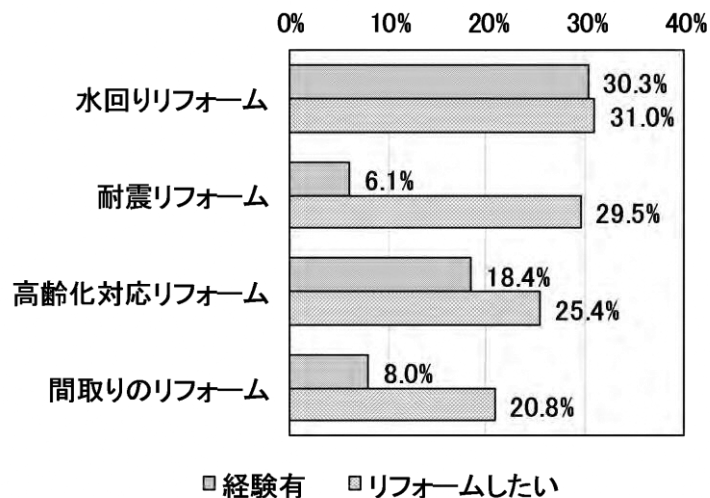
○持ち家のリフォーム*

経験有りは、「水廻り」30.3%、「高齢化対応」18.4%、「間取り」8%、「耐震」6.1%の順です。

希望は、「水廻り」31.0%、「耐震」29.5%、「高齢化対応」25.4%、「間取り」20.8%の順です。

「耐震」については、“経験有り”の比率は最も少ないですが、地震に対する関心は高く“希望”の比率は特に多くなっています。

◆ 持ち家のリフォームの経験と希望



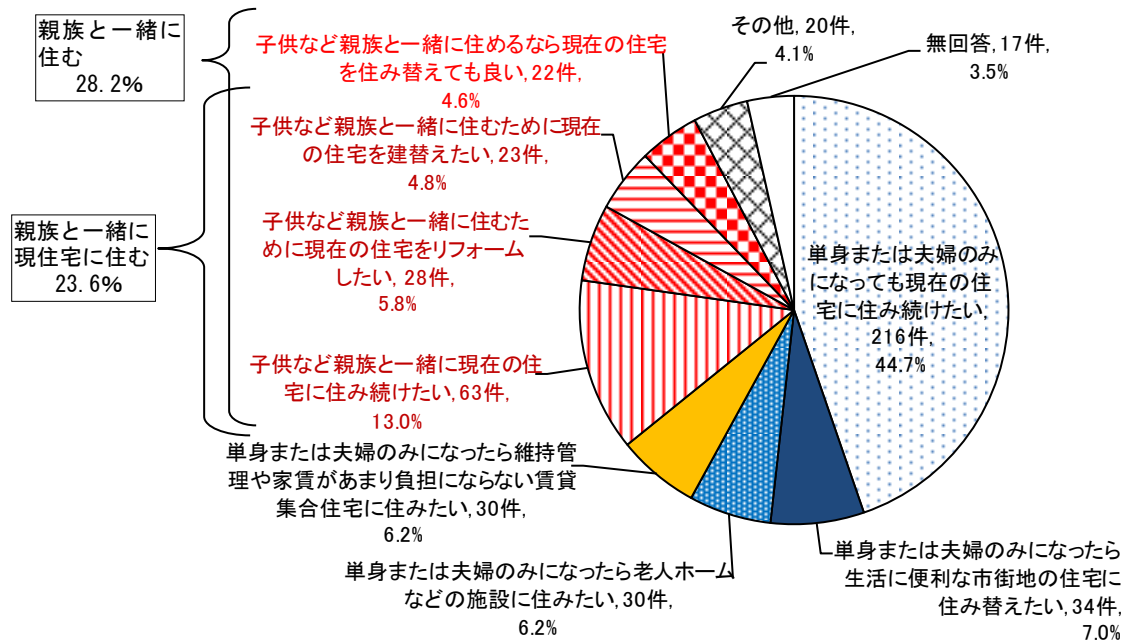
* リフォーム：家族構成や居住形態等にあわせて住宅を改装、増改築すること。

②高齢期の住まい

○高齢期の住まい方

「単身・夫婦のみでも現住宅に住み続けたい」が44.7%で最も多くなっています。次いで、「親族と現住所に住む」23.6%（現状+リフォーム+建替え…住み替えを含む親族と一緒にの希望は28.2%）で、このほか「単身・夫婦のみになったら市街地の住宅」が7%、「老人ホーム」が6.2%、「賃貸集合住宅」が6.2%となっています。

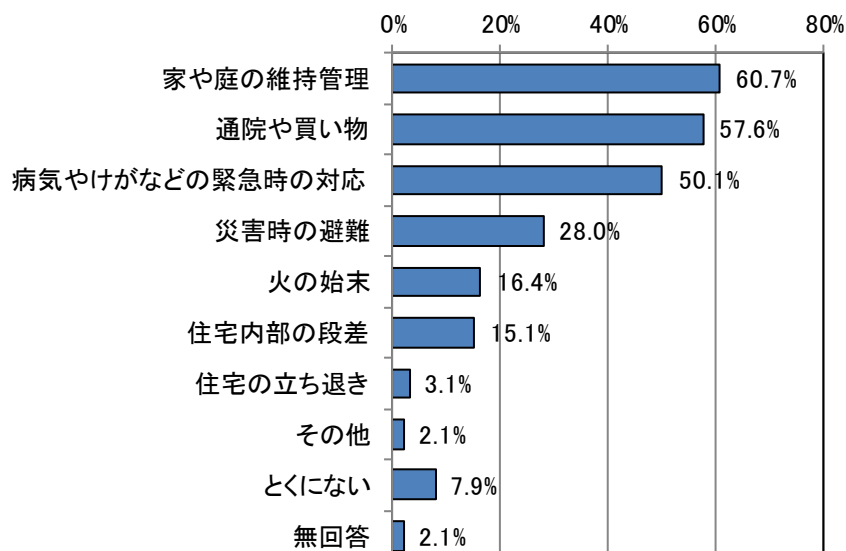
◆ 高齢期の住まい方の希望



○高齢期の住まい住環境の不安（複数回答）

「家や庭の維持管理」60.7%、「通院や買い物」57.6%、「病気やけがなどの緊急時の対応」50.1%が特に多い状況です。このほか「災害時の避難」28.0%、「火の始末」16.4%、「住宅内部の段差」15.1%となっています。

◆ 高齢期の住まい・住環境の不安（複数回答）

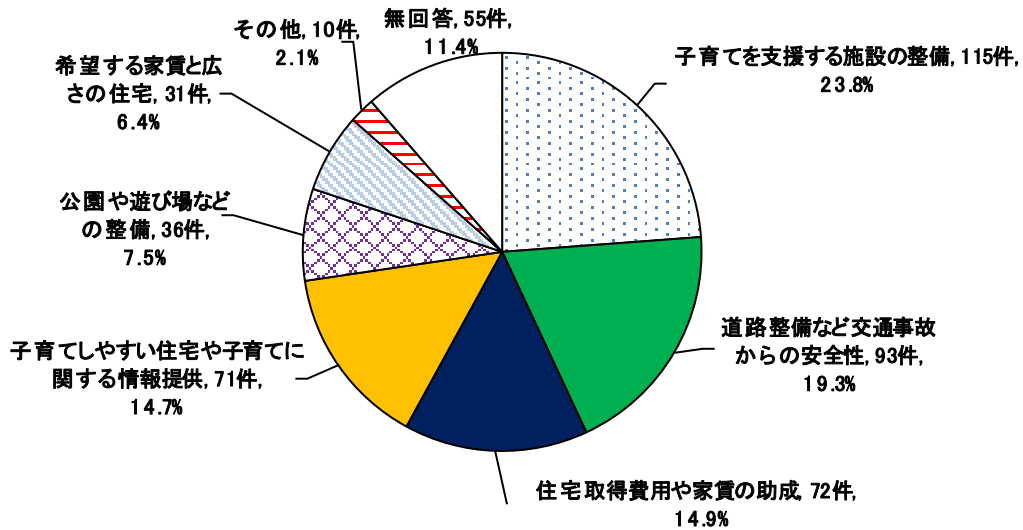


③子育て期の住まい

○子育て期の住宅・住環境で最も必要なこと

「子育てを支援する施設の整備」が23.8%、「道路整備など交通事故からの安全性」が19.3%、次いで「住宅取得費用や家賃の助成」、「子育てしやすい住宅や子育てに関する情報提供」が約15.0%、「公園や遊び場などの整備」7.5%の順となっています。

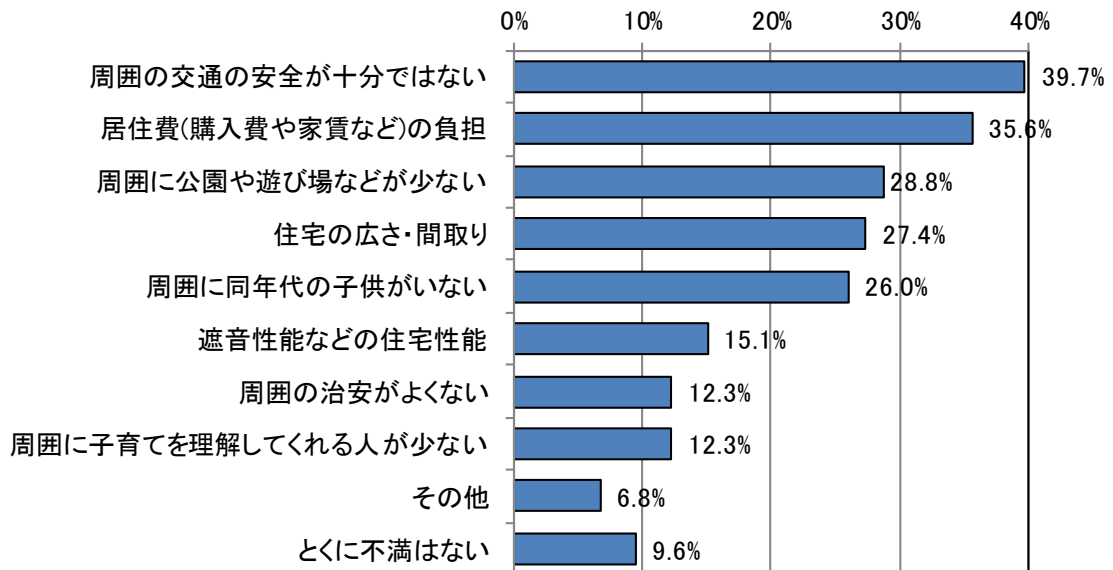
◆ 子育てのための必要な住宅・住環境



○子育てをする上での住宅や住環境における不満（複数回答）

「交通の安全が十分ではない」39.7%が最も多く、次いで「居住費(購入費や家賃など)の負担」35.6%、「公園や遊び場などが少ない」28.8%、「住宅の広さ・間取り」27.4%、「同年代の子供がいない」26.0%の順となっています。

◆ 子育て期の住宅・住環境の不満（複数回答）



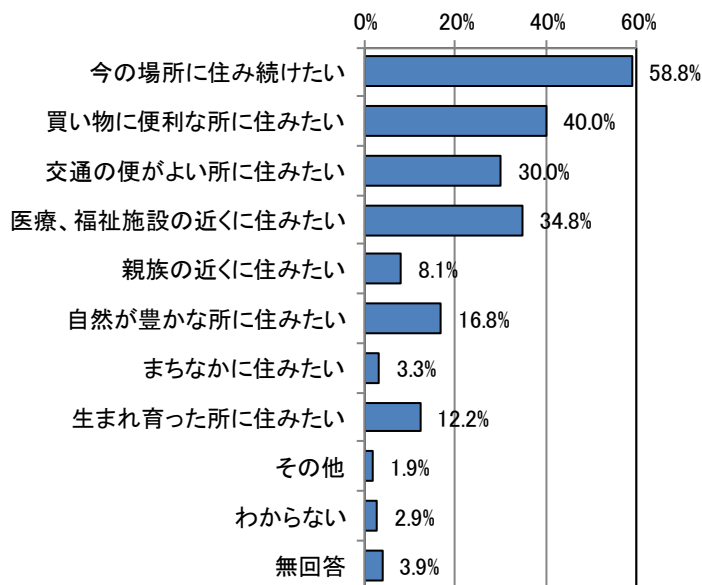
④真岡市に対する考え方

○将来の居住場所（複数回答）

「今の場所に住み続けたい」が58.8%で最も多く、次いで「買い物に便利な所に住みたい」40.0%、「医療、福祉施設の近くに住みたい」34.8%、「交通の便がよい所に住みたい」30%の順となっています。

「まちなかに住みたい」は3.3%で、その他を除き最も少なくなっています。

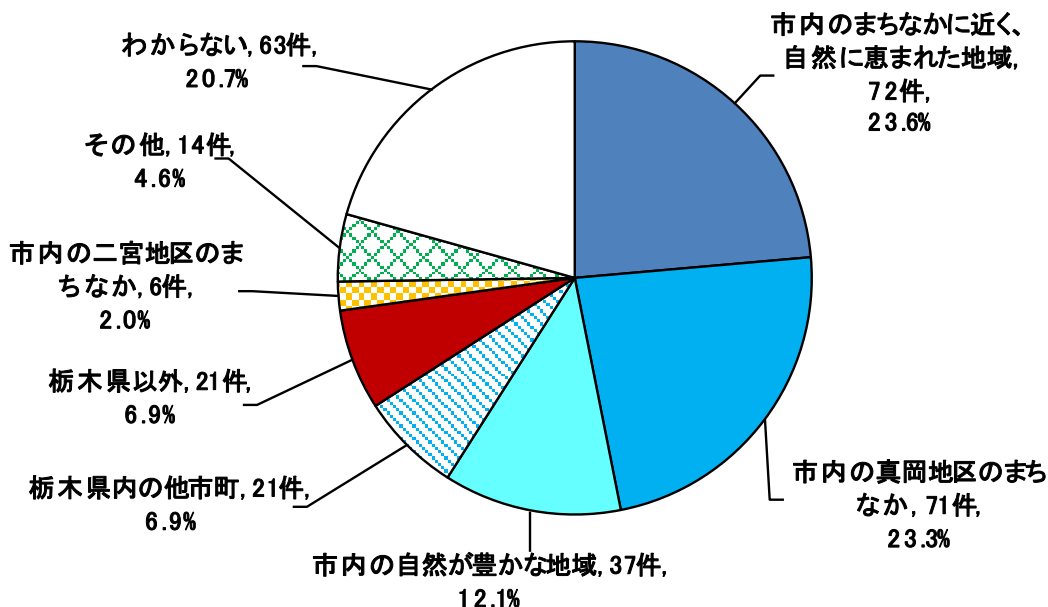
◆ 将来の居住場所の希望（複数回答）



○転居する場合の場所

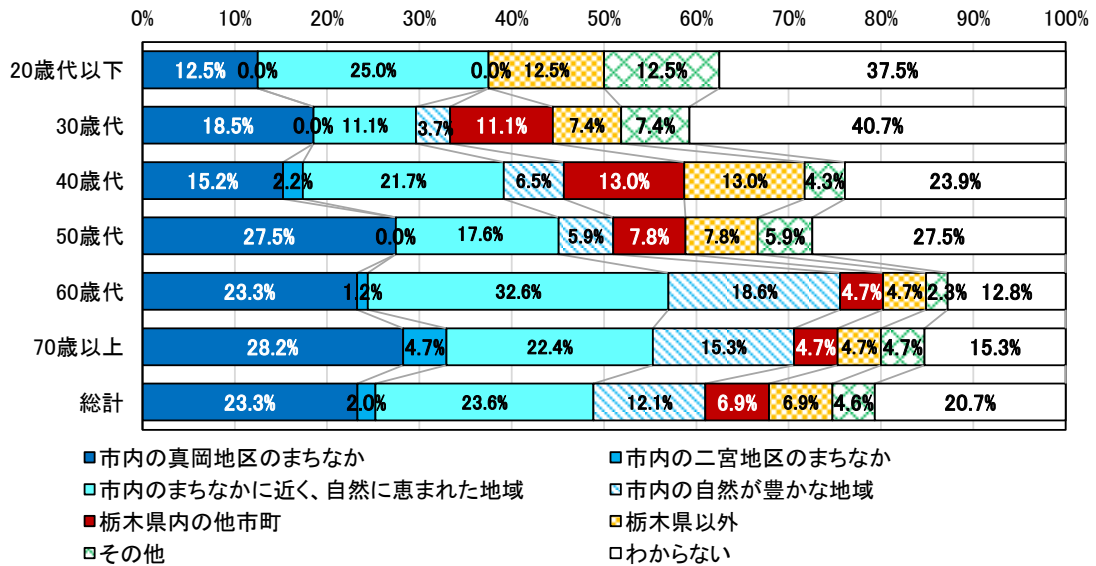
「市内のまちなかに近く自然に恵まれた地域」が23.6%、「市内の真岡地区のまちなか」23.3%と多く、次いで市外（県内+県外）が13.8%、「市内の自然豊かな地域」12.1%の順となっています。

◆ 転居する場合の場所の希望



年代別では、30歳代以下では、「わからない」、40歳代では市外（県内+県外）、50歳代、70歳代では「市内の真岡地区のまちなか」、60歳代では「市内のまちなかに近く自然に恵まれた地域」が最も多くがなっています。

◆ 世帯主年代別の転居する場合の場所の希望

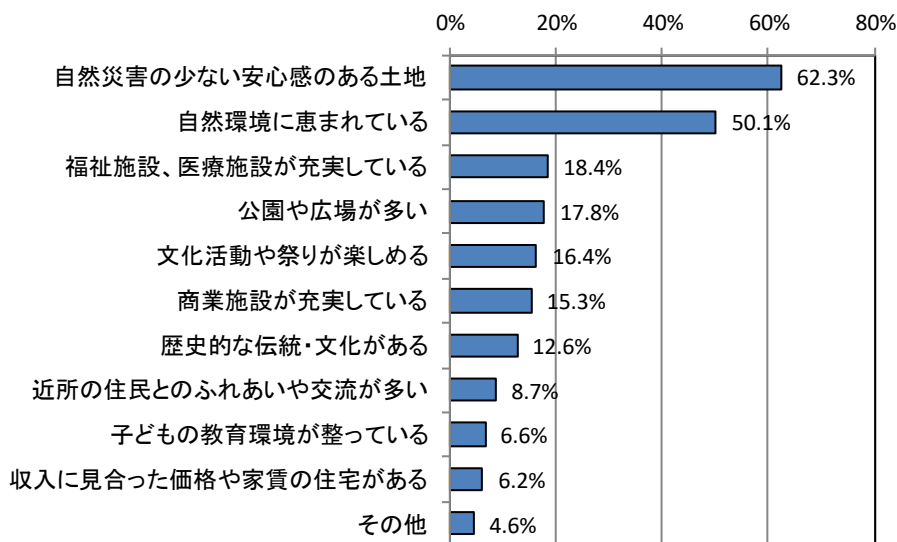


⑤真岡市の魅力（複数回答）

「自然災害の少ない安心感のある土地」62.3%と「自然環境に恵まれている」50.1%が特に多くなっています。

このほか、「福祉施設、医療施設が充実している」18.4%、「公園や広場が多い」17.8%、「文化活動や祭りが楽しめる」16.4%、「商業施設が充実している」15.3%などの順となっています。

◆ 真岡市の魅力（複数回答）



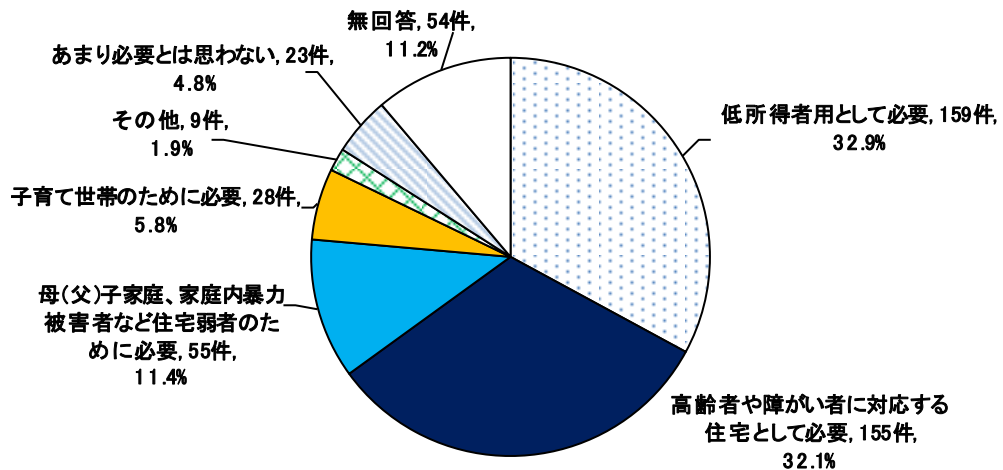
⑥住宅・住環境への取り組み方等

○公的賃貸住宅の今後のあり方

「低所得者用として必要」32.9%、「高齢者や障がい者に対応する住宅として必要」32.1%が多く、次いで、「母（父）子家庭、家庭内暴力被害者など住宅弱者のために必要」11.4%、「子育て世帯のために必要」5.8%などの順となっています。

「あまり必要とは思わない」は4.8%です。

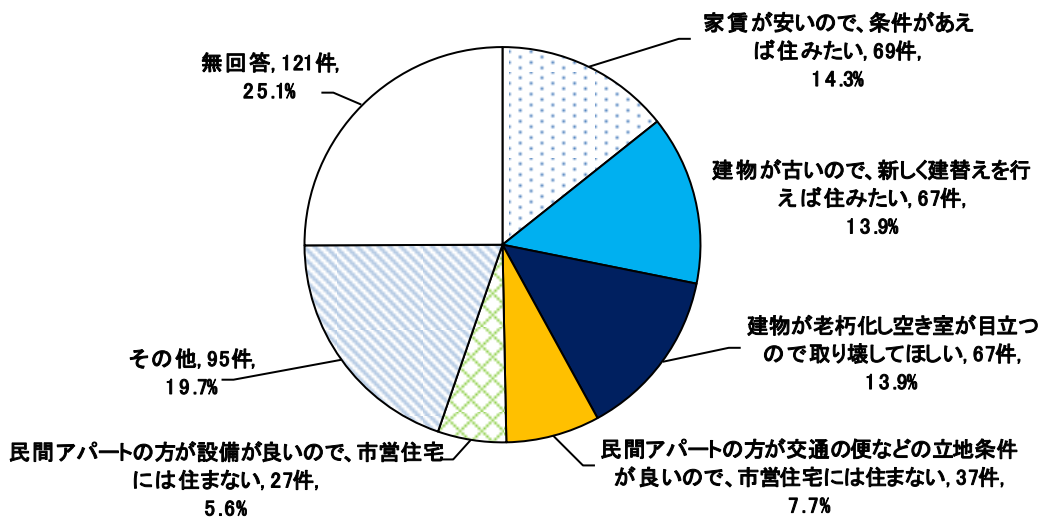
◆ 公的賃貸住宅の今後のあり方



○市営住宅について

「家賃が安いので、条件があれば住みたい」、「建替えを行えば住みたい」、「取り壊してほしい」約14%、「民間アパートの方が交通の便などの立地条件が良い」7.7%、「民間アパートの方が設備が良い」5.6%などの順となっています。

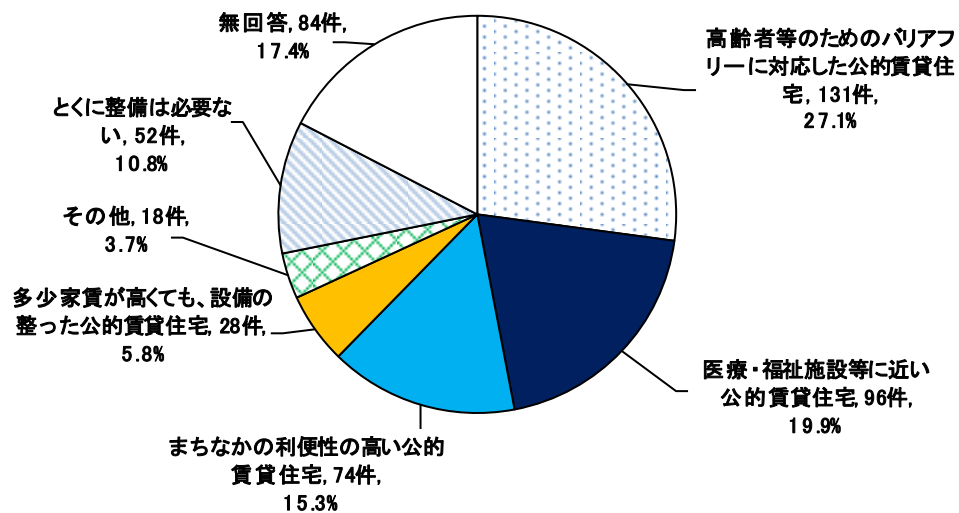
◆ 市営住宅について



○真岡市における公的賃貸住宅の整備の希望

「高齢者等のためのバリアフリー*に対応した公的賃貸住宅」27.1%が特に多く、次いで、「医療・福祉施設等に近い公的賃貸住宅」19.9%、「まちなかの利便性の高い公的賃貸住宅」15.3%などとなっています。

◆ 真岡市における公的賃貸住宅の整備の希望



*バリアフリー：住宅等において、高齢者や障がい者等の身体特性に配慮して、車椅子で通行可能な廊下の幅員の確保、床の段差解消、手すりの設置など、様々な建築上の障害を取り除く設計手法。

○住宅・住環境に対する重要な取り組み（複数回答）

「高齢期でも自立した生活ができる支援サービス」が41.4%と最も多く、次いで「バリアフリー化住宅改造支援」22.8%、「空き家対策」20.9%、「高齢者向け住宅の供給」20.1%となっています。このほか、「住宅取得や建替えのための融資等の支援」、「高齢者、障がい者のための家賃助成」約17%などとなっています。

高齢者の住まいに関する取り組みが重要なものとして多く挙げられています。

◆ 真岡市の住宅・住環境に対する取り組みとして重要なもの（複数回答）

